令和 7 年度

教職課程
自己点検評価報告書

国立音楽大学音楽学部

令和 8 年 10 月

国立音楽大学　教職課程認定学部・学科一覧

音楽学部（演奏・創作学科、音楽文化教育学科）

目次

Ⅰ　教職課程の現況及び特色 …… P.1

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価 …… P.2

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み …… P.2

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援 …… P.4

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム …… P.7

Ⅲ　総合評価 …… P.9

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス …… P.10

Ⅴ　現況基礎データ一覧 …… P.11

Ⅰ　教職課程の現況及び特色

１　現況

⑴　大学名：国立音楽大学音楽学部

⑵　所在地：東京都立川市柏町 5-5-1

⑶　学生数及び教員数（令和７年５月１日現在）

学生数：教職課程履修 722 名（令和７年度現在）／学部全体 1,173 名

教員数：教職課程科目担当（教職・教科とも）55 名／学部全体 383 名

２　特色

国立音楽大学は、１学部２学科２専攻・９専修をもつ単科大学である。演奏・創作学科及び音楽文化教育学科音楽文化教育専攻（音楽教育専修、音楽療法専修、音楽情報専修）では中学校教諭一種免許状（音楽）、高等学校教諭一種免許状（音楽）、音楽文化教育学科幼児音楽教育専攻では幼稚園教諭一種免許状がそれぞれ取得可能となっている。

中・高等学校教諭養成を目指す教職課程においては、教職課程運営会を設置し、規約に基づき全学的な授業運営を図り、教育実習、介護等体験、その他必要な事項について、運営・実施を統括している。また、学務部教務課との連携により、年度当初に行われる学年別の「教職課程履修説明会」の開催、教育実習や介護等体験等の事前と事後を含め、きめ細かく指導している。教育実習時には、全学科の専任教員が東京都内の実習校を訪問し巡回指導を行っている。巡回指導時に得られた情報は、教職課程運営会で共有し改善に生かしている。

幼稚園教諭養成を目指す幼児音楽教育専攻においては、専任教員が個々の学生に即した指導に当たり、質の高い授業や教育実習に向けた指導を行っている。また、学生には１年次から本学の附属幼稚園へ見学に行くことで幼稚園教諭への動機づけを高め、さらに３年生を対象とした「教育実習Ⅰ」は附属幼稚園という慣れた環境の中で実施し、幼稚園教諭としての適性を確認している。４年生で実施される「教育実習Ⅱ」は、学生が個別に依頼した幼稚園での実習とし、その園を専任教員全員が分担して実習中に訪問し、理事長や園長と面談し、教育実習実施上の課題、学生の実習状況の把握に努めている。得られた情報は幼児音楽教育専攻運営会で報告､協議し､教職課程の運営の評価と改善に生かしている。

Ⅱ　基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域１　教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目１－１　教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

〈学部〉

学則第１条において「音楽と教育の理論、技術とその応用の指導及び研究を目的とし、同時に良識ある音楽家、教育家を養成する」と示しているが、その趣旨は以下の通りである。

１　自由、自主、自律の精神を以て、基本となる知識や技能を備え、健全な考えや判断ができるとともに、専門的な知見や能力をもった音楽家、教育家を養成する。

２　日本や世界の幅広い分野で、音楽を通して社会に貢献できる音楽家、教育家の養成という基本的理念に基づき、以下の目標に則して教員の養成を図る。

①　教育に対する強い使命感と深い教育的愛情を持つ。

②　高いコミュニケーション能力と服務に対する厳正な態度を備える。

③　生涯にわたって学び続ける。

④　音楽科を始めとする教科等（道徳、総合的な学習（探究）の時間を含む）及び生徒指導（生活指導、進路指導、特別活動の指導等）の教育力の向上を図る。

〔長所・特色〕

〈学科〉

１　演奏・創作学科

演奏系の専修（声楽、鍵盤楽器、弦管打楽器、ジャズ）と創作系の専修（作曲、コンピュータ音楽）から成る。演奏系の専修では、演奏家としてのスキルや表現力だけでなく、協調性や人間性をも高めること、創作系の専修では、さまざまな分野において、独自の発想を持ち、活躍できる力を修得することを目的としている。このような演奏スキルや表現力、協調性、人間性を生かし、学習指導要領の理念を十分に達成できる資質・能力を身に付けた教員を養成する。

２　音楽文化教育学科音楽文化教育専攻

音楽の高い技能と幅広い知識を活用し、よりよい社会の実現を目指して、多様な音楽文化を支え、その発展を積極的に推進していくことのできる人間性豊かな音楽文化人を養成することを目的にしている。音楽文化教育専攻は３つの専修からなり、幅広い分野において音楽文化の発展に貢献し、活躍できる人材を養成することを目的としている。このような音楽文化人としての基礎的な演奏スキルと人間性とを生かし、学習指導要領の理念を十分に達成できる資質・能力を身に付けた教員を養成する。

３　音楽文化教育学科幼児音楽教育専攻

幼児音楽教育専攻は、音楽系科目と幼児教育系科目の学びを融合させた専門的な学びを行っている。このような教育を通して、音楽と保育に関する技能を高め、「音楽性豊かな幼稚園教諭」を養成するとともに、広く音楽教室などで周囲の人と協力しながら子どもの育成や地域社会の発展に貢献する人材を養成する。

〔取り組み上の課題〕

専任教員及び非常勤教員が情報共有並びに情報交換を目的にオンラインにて授業担当者会議を行ってきたが、引き続き多くの教員が参加できるよう、開催方法や設定日等の改善・充実を図る。

〈根拠となる資料・データ等〉

・国立音楽大学学則

・国立音楽大学ウェブサイトより「教職課程に関する情報公開」
（https://www.kunitachi.ac.jp/introduction/data/teacher_training/teacher_training.html）

基準項目１－２　教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

教職課程運営会を中心に、全学的に授業運営、教育実習、介護等体験、その他必要な事項について、運営・実施の統括を行っている。具体的には、学務部教務課との連携による「教職課程履修説明会」の開催、教育実習や介護等体験等の事前と事後の指導を行い、教員免許状取得に向けた方向づけを図っている。

幼稚園教諭養成を目指す幼児音楽教育専攻においては、幼児音楽教育専攻運営会によりきめ細かく学生の指導に当たり、質の高い授業や教育実習に向けた指導を行っている。

〔長所・特色〕

１　学生に対する授業評価アンケートの実施

教学システムを使用し、セメスターごとに学生によるアンケートを実施している。アンケート結果は、教員に個別に通知するとともに学生に学内（教務課、図書館）で公開している。教員はアンケート結果に基づきティーチング・ポートフォリオまたは授業改善計画書を作成し、本学ウェブサイト上で学内者に公開している。

２　ＦＤの実施

運営会ごとに科目の特徴に応じた授業力向上のＦＤ研修を行っている。その取り組み状況を教務委員会及び教授会で報告して互いに工夫を学び合えるようにし、授業改善に役立てている。

３　近隣自治体の教育委員会との連携による教員の派遣

東京都教育委員会、区市町村教育委員会からの要請を受けて、授業研究会の指導・助言のための講師、学校評価にかかわる第三者委員会、学校評価検討委員会等に本学教員が委員として参画している。また、各学校からの要請により、コミュニティ・スクール学校運営協議会、学校評議員会に本学教員を派遣し、教育委員会や学校の現状把握や改善に向けた助言に努めている。

４　東京都立特別支援学校、社会福祉施設への教員の派遣

介護等体験受け入れ先である東京都立特別支援学校、社会福祉施設を担当教員が訪問し、管理職または担当職員と面談し、介護等体験実施上の課題等を把握するとともに、学生の教職への取り組み姿勢の向上に努め、教職課程運営会が集約し教職課程の改善や学生への指導・助言に活用している。

〔取り組み上の課題〕

上記４については今後、都立特別支援学校や社会福祉施設からの要請を踏まえて、改善を図る。

〈根拠となる資料・データ等〉

・国立音楽大学ウェブサイトより「教職課程に関する情報公開」
（https://www.kunitachi.ac.jp/introduction/data/teacher_training/teacher_training.html）

基準領域２　学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目２－１　教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔中学校・高等学校課程〕

〔現状説明〕

ア　教員免許状を取得するためのカリキュラムを示し、計画的、継続的、意欲的に学ぶ覚悟のある学生に教職課程の履修をするよう促している。令和７年度は「教職課程の履修案内」を全面的に改訂し、将来の見通し持って履修できるよう新入学生に示している。

イ　専門科目の学修の確実な履修を条件に、教員になりたい、教員免許状を取得したいという学生の意欲を重視し、きめ細やかに指導している。

ウ　事前に、履修カルテの活用方法、記入方法等を丁寧に説明し、セメスターごとに学生に成果と課題等について記入させ、その内容を踏まえた指導を行い、学修の充実を図っている。

エ　教育基本法第１条「教育の目的」を理解するとともに、第２条「教育の目標」の「１」に謳われている豊かな情操の涵養に意欲をもって取り組むことができるよう、学生を指導している。

〔長所・特色〕

・　例年、新入学生の６割程度が教職課程を履修しているが、ほとんどの学生が途中で履修を断念することなく教員免許状を取得している。

〔取り組み上の課題〕

・　教職課程を履修する学生の比率は高くなっているものの、質の高い教員が求められている現在、さらなる教員採用試験の合格者増加に向けた指導の充実が必要と考えられる。

〈根拠となる資料・データ等〉

・資料２－１－１　学生便覧
・資料２－１－２　募集要項
・資料２－１－３　教職課程の履修案内

〔幼稚園課程〕

〔現状説明〕

ア　上質な音楽に囲まれて学習できる環境を通して、音楽と幼児教育にわたる専門的な知識や技能の修得を志望する学生を募集している。

イ　年に２回全国で一斉に実施される保育士試験を通して保育士資格を取得できるように、保育士試験対策講座を開講している。

ウ　幼児音楽教育専攻の教員が本学附属幼稚園の園長を兼務することにより、「教育実習Ⅰ」をはじめ、行事の見学や、ボランティア等を通して学生が幼児教育の現場に身を置き、子どもたちと実際に関わりながら、実践的な学びを身につけていくことを支援している。

エ　事前に、履修カルテの活用方法、記入方法等を丁寧に説明し、セメスターごとに学生に成果と課題等について記入させ、その内容を踏まえ、指導を行い、学修の充実を図っている。

〔長所・特色〕

・　在学中に保育士資格をあわせて取得し、認定こども園において保育教諭として就職できるように学生の育成やキャリア支援をあわせて進めている。

〔取り組み上の課題〕

・　入学してくる学生の中には必ずしも保育者を目指さない、あるいは適性が不十分な学生がいることも事実であり、そのような学生をどのように育てるかが課題となっている。

〈根拠となる資料・データ等〉

・資料２－１－１　学生便覧
・資料２－１－２　募集要項

基準項目２－２　教職へのキャリア支援

〔中学校・高等学校課程〕

〔現状説明〕

ア　年度当初に行われるガイダンスや通年の授業や、随時の個別指導等を通して、教職に就こうとしている学生の相談等に応じ、意欲や適性を把握し、適切な指導・助言を行っている。

イ　教職についての理解、教職に就くことに対する意欲を高めるために、小・中・高等学校等での授業補助、訪問演奏やボランティア活動等の経験を積ませ、教職特別講座や教職特別講義等を開催し、学校現場等で実際に指導に当たっている教員、音楽の専門家等を招き指導を受けることを通して、キャリア支援を組織的、計画的に行っている。

ウ　教職に関わる情報に関しては、教職関係の授業、年度当初のガイダンス、就職システムと連動したメール配信、掲示等を通して適宜提供している。

エ　キャリア支援担当課と連携し、卒業生の講演や勤務校での活躍状況の紹介、各自治体における教員採用情報や本学学生の採用状況等の情報提供を積極的に行うとともに、教職特別講座、一次選考合格者に向けた学習会、教員による日常的な相談活動、教員採用選考に向けた指導等を通して、教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫を行っている。

オ　顕著な成果を挙げている卒業生の実践等の紹介、地域のイベント等での演奏、運営補助等を通して、卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

カ　学部３年生が教員採用一次試験を受けられるような制度改正があったため、採用試験対策の教職特別講座の開催を２年生まで広げた。

キ　教員採用試験における大学推薦に関しては、面接試験を通して資質・能力の高い学生を確実に推薦できるような仕組みを整えた。

〔長所・特色〕
・　卒業後教員になる学生が、継続して 15%程度存在している現状は、開放制の意義を体現できていると考えられる。
・　自ら進んで、学校等で授業補助、訪問演奏、ボランティア活動に参加するというように教職に向き合う意識が高い学生が多い。
・　担当課、担当教員が、きめ細やかに学生の個別指導を行っている。

〔取り組み上の課題〕
・　教職特別講座は学部３年生が教員採用一次試験を受けられる自治体の増加に対応して、今後一層内容の充実を図る。

〈根拠となる資料・データ等〉
・資料２－２－１　学生便覧
・資料２－２－２　募集要項

〔幼稚園課程〕
〔現状説明〕
ア　年度のはじめには学年ごとにオリエンテーションを行い、その中で特に教育実習に向けた心構えやどのような準備をする必要があるかなどを伝え、卒業後に保育の現場に立つための心構えの形成を図っている。
イ　幼稚園に就職した卒業生を講師として迎え、幼稚園教諭就職希望者向けのセミナーを実施し、現場の状況を身近な先輩に語ってもらう機会を設けている。

〔長所・特色〕
・　就職先の相談については、学生支援課と連携をしながら、幼児音楽教育専攻に所属する専任教員が学生の相談を受けることで、多様な視点から学生が自分に適した園を見つけられるような体制となっている。
・　幼児教育の現場を肌で学生が感じ取れるように、「幼児教育の体験活動ＡＢ」という授業科目を設定し、幼稚園のみならず保育所や小学校、特別支援学校など様々な保育・教育施設を見学したり、上級救命救急講習の受講を必須にしたりするなど、実践力の育成に努めるとともに、就職に向けて自ら考える機会を作っている。

〔取り組み上の課題〕
・「幼児教育の体験活動ＡＢ」は様々な保育・教育施設を訪問するが、子どもの感染症流行があった場合は現場の訪問時期の変更を余儀なくされることがあるため、現場との連絡を密にした柔軟な対応が求められている。
・近年の教員・保育士不足から、現場の求人活動が早期化している傾向がある。教職での学びを進めた上で、学生が正しい判断で就職できるよう支援が求められる。

〈根拠となる資料・データ等〉
・資料２－２－１　学生便覧
・資料２－２－２　募集要項

基準領域３　適切な教職課程カリキュラム

基準項目３－１　教職課程カリキュラムの編成・実施

〔中学校・高等学校課程〕

〔現状説明〕

ア　音楽大学に設置されている教職課程であることを踏まえ、本学で重視している「アンサンブル」を大切にしつつ、教員免許状の取得に必要なさまざまな科目との連携を図りながら、我が国の音楽科教育を牽引する人材の育成を目指している。

イ　多様化する課題に対応し、今日の児童生徒の実態、様々な教育課題を踏まえた指導内容の充実、工夫を行っている。

ウ　コロナ禍で急速に進んだＧＩＧＡスクール構想のもと、小・中・高等学校で一人一台端末の活用を踏まえて、教員になった際に授業等において、積極的、効果的にＩＣＴを活用できるよう、教職科目の中で指導を行っている。

エ　アクティブ・ラーニングはもとより「令和の日本型学校教育」で謳われている「個別最適な学び」や「協働的な学び」も考慮した指導ができるように授業の中で配慮している。

オ　シラバスを通して、科目のねらい、授業計画、予習・復習の方法、使用するテキストや資料、評価の観点を学生に示し、効果的、効率的に学べるように配慮している。

カ　１年次からの計画的､継続的なガイダンス､４年次になった際の実際的な指導により、実り多い教育実習になるよう指導を行っている。

キ　１年次から半期ごとに継続的に履修カルテに記入させ、自らの課題とその解決に向けた取組等を明確にするとともに、教職担当の教員が一人ひとりにコメントを付すことを通して、４年後期に開講する教職科目の総仕上げである「教職実践演習」の指導に生かしている。

ク　明星大学と連携して、小学校全科の二種免許状の取得も可能で、学校間連携に寄与できるような教員養成を行っている。

〔長所・特色〕

・　学校教育コース、吹奏楽指導者コース等を開設し、学校の現場で役に立つ指導法のスキルアップを図っている。

〔取り組み上の課題〕

・　ＩＣＴの活用が求められているものの、コンピュータ端末の操作に習熟していない学生もみられ、教育現場ですぐに活用できるスキルの獲得が必要とされる。

・　小学校全科の二種免許状取得に当たり、附属小学校との連携を進めているが、教育実習先を探すのに困難を極めている。

〈根拠となる資料・データ等〉

・資料３－１－１　学生便覧

・資料３－１－２　シラバス

〔幼稚園課程〕

〔現状説明〕

ア　幼児音楽教育の本質や原理、情報機器の活用を含む幼児教育方法論等とともに、２年次まで全学共通の基礎科目で音楽的能力を高めながら、幼稚園教諭に必要な内容の科目や実技について並行して学習している。

イ　幼児教育現場で求められているＩＣＴ化に対応し、積極的、効果的に活用していけるよう「音楽ＩＣＴ演習」または「教育メディア論」という授業の中で指導を行っている。

ウ　幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な科目に加えて、基礎課程の科目として位置づけられている「器楽表現」、「声楽表現」、「音楽教育演習」のリトミックや打楽器、さらには必修科目である「表現教育」等、本学独自の演習を履修する実践的な教育を通して、音楽の資質と表現力をともに高める教育を行っている。

エ　１年次から半期ごとに継続的に履修カルテに記入させ、それに対して教員がコメントを加えることによって、自らの課題とその解決に向けた取組等を明確にし、４年次後期の教職科目の総仕上げの「教職実践演習」の指導に生かしている。

オ　小学校全科の二種免許状の取得を目指すことができるように、明星大学の通信教育部と連携をしている。

〔長所・特色〕

・　３年次より幼児音楽指導者コースを選択して履修する学生が多く、より高い音楽性が求められるオペレッタの制作、実演を行っている。

〔取り組み上の課題〕

・　音楽的な基礎スキルが高い学生もいる反面、必ずしも音楽大学の学生としては十分ではない学生も在籍していることは事実であり、そのスキルの底上げが必要となっている。

・　ＩＣＴの活用が求められているものの、パソコン等の操作の習熟については個人差が大きいため、教育現場ですぐに活用できるスキルの獲得が必要とされる。

〈根拠となる資料・データ等〉

・資料３－１－１　学生便覧

・資料３－１－２　シラバス

基準項目３－２　実践的指導力育成と地域との連携

〔中学校・高等学校課程〕

〔現状説明〕

ア　本学の多くの学生が中高免許状の取得を目指すことから、学生の多様性に応えるための個別相談等を積極的に行っている。

イ　本学では、明星大学と連携して小学校全科の二種免許状も取得可能であるが、定期的に該当する学生を集めて、履修などの指導を個別に行っている。

ウ　地域の学校での授業補助、訪問演奏やボランティア活動等を通して、学校、教職員、児童生徒への理解促進を図っている。

エ　可能な限り、教育実習受入れ校には指導教員を派遣し、教育実習の充実を図るために連携を図っている。

〔長所・特色〕
・　大学周辺の学校等で、学生が積極的に授業補助、訪問演奏やボランティア活動などを行っている。
〔取り組み上の課題〕
・　学外の機関に対し、大学の施設開放を検討しているが、実施に至っていない現状にある。
〈根拠となる資料・データ等〉
・資料３－２－１　履修カルテ

〔幼稚園課程〕
〔現状説明〕
ア　学生が企画から運営にわたって実施し、音楽遊びや手作りの遊具を創作して幼児と遊ぶ「七夕祭」を通して、招待した幼児と実際に遊ぶ実践力を養成している。
イ　リトミック・打楽器・オペレッタ・造形等の表現系の学習成果を発表する「幼教Ｄａｙ」を通して、幼児音楽指導者に求められる表現技術、演出力や、構成力等を養成している。
ウ　幼児教育に係る体験活動を専攻独自の必修科目として開講し、その中では消防署の職員による上級救命救急講習も実施して、幼稚園教諭として幼児の健康と安全に係る知識や技能を実践的に修得することを支援している。
エ　専攻の充実した学びの様子を、学生を中心に Instagram 等を通して公開し、地域や社会と共有している。
〔長所・特色〕
・　地域の要請に基づいて、専攻の学生や、音楽遊び等のサークルがボランティア活動を実施している。
〔取り組み上の課題〕
・　学生が企画・運営し地域の子どもたちを招いて実施する「七夕祭」は、実践的学びにつながる有益なものであるが、学生数の減少に伴い、実施の在り方の変更や工夫が求められている。
〈根拠となる資料・データ等〉
・資料３－２－１　学生便覧
・資料３－２－２　シラバス

Ⅲ　総合評価
〔評価できる点〕
・　教職課程運営会ならびに幼児音楽教育専攻運営会を設置して､｢中学校･高等学校課程」と「幼稚園課程」に関わる情報を教員間で共有を図るとともに、両課程と教務課、学生支援課等の職員とも連携が図られており、学生の指導が円滑になされている。
・　音楽大学ならではの恵まれた環境の中で、専門の教員による高度な「声楽表現」､「器楽表現」､「創作表現」､「リトミック」等の授業を受け、豊かな感性、情操を備え、高い音楽の専門性を備えた教職を目指す学生の育成を行っている。

・　中学校・高等学校、幼稚園の教員免許状を取得することに加えて、明星大学と連携した小学校全科の二種免許状の他、保育士の資格取得など幅広い進路選択ができるようになっている。
・　履修カルテを活用し、学生の学修状況等を把握し、セメスターごとに担当教員がチェックを行い、コメントを付すことで個別指導の徹底を図っている。
・　教務課や学生支援課のサポートのもと、各種のオリエンテーションや説明会等を、年間を通してきめ細かく行い、学生が不安なく教職科目に取り組み、就職について考えるように配慮している。
・　卒業生をはじめとして外部講師による音楽教育に関するさまざまなセミナー等を実施し視野を広げ、教職に対する興味や関心を高めるように情報提供をしている。
・　学生主体のさまざまな行事を開催し、教員の指導のもと、学生の主体性や企画力・運営力の育成を図り、教員等になった時に生かせるようにしている。
・　本学大学院修士課程において、専修免許状（音楽）を取得できるだけでなく、東京学芸大学教職大学院と連携し、スクールリーダーを目指す学生の学びを深める機会としている。

〔今後の課題〕

・　教職課程は履修するが別の進路を選択する学生も少なからず存在しており、授業運営の工夫が必要である。
・　教育委員会、学校等との連携を強化することで、教員を目指す学生の更なる指導の充実が求められている。
・　上記の評価できる部分を更に伸長させ、課題を克服していくことを目指し、教職課程に関わる教員ならびに教務課、学生支援課が中心となり、全学的にさらに協働していくことが期待される。

Ⅳ　「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

2026 年　7 月 10 日　　教務課担当者が原案作成
2026 年　7 月 10 日～8 月 17 日
　　教職課程運営会、幼児音楽教育専攻運営会で原案の検討
2026 年　8 月 31 日　　「令和 7 年度教職課程自己点検評価報告書」の最終案決定
2026 年　9 月　　自己点検・評価委員会にて確認
2026 年 10 月　　本学ウェブサイトにて公開

Ⅴ　現況基礎データ一覧

令和７年５月１日現在

法人名 学校法人　国立音楽大学					
大学・学部名 国立音楽大学・音楽学部					
学科・コース名（必要な場合） 演奏・創作学科、音楽文化教育学科					
1　卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
①　昨年度卒業者数					308
②　①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）					142
③　①のうち、教員免許状取得者の実数 （複数免許状取得者も１と数える）					161
④　②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）					37
⑤　④のうち、正規採用者数					23
⑥　④のうち、臨時的任用者数					14
2　教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他（非常勤教員）
教員数	39	33	0	0	311
相談員・支援員など専門職員数　0					